

有本嘉代子さん死去

94歳 拉致被害者・恵子さん母



有本恵子さんの帰国を願う明弘さんと嘉代子さん（左）。食卓にはパースデーケーキが用意された＝2019年1月、神戸市長田区

北朝鮮に拉致された娘・有本恵子さん（当時23）との再会を願いつづけた母・有本嘉代子（ありもと・かよこ）さんが3日、心不全で亡くなった。94歳だった。喪主で夫の明弘さん（91）が6日、明らかにした。通夜・葬儀は親族らで営まれた。

嘉代子さんと明弘さんの三女・恵子さんは1983年、英国留学中に北朝鮮に拉致された。恵子さんの消息をつかめずにいた嘉代子さんから夫妻が、欧州で拉致された石岡亨さん（札幌市出身）の家族宛ての手紙から、恵子さんが石岡さんと一緒に北朝鮮にいることを知ったのは88年だった。

北朝鮮からの救出・帰国を願い、97年には横田めぐみさんの両親らと拉致被害者家族連絡会を結成した。2002年には、旅券法違反などの罪に問われた、よど号ハイジャック事件メンバーの元妻が恵子さんをだまして北朝鮮に連れ去ったことを公判で証言した。

同年の小泉純一郎首相の訪朝時、北朝鮮は恵子さんについて「死亡」したと伝達。だが、北朝鮮が出してきた死亡確認書は生年月日が違うなど不審点が多く、嘉代子さんら夫妻は恵子さんの生存を信じた。恵子さんの誕生日には毎年、ケーキや赤飯を用意し、お祝いを続けてきた。先月12日には恵子さん60歳の誕生日を迎えたばかりだった。

18年6月の米朝首脳会談以降は、拉致問題の解決に期待を寄せていた。兵庫県警が同年12月に開いた拉致問題のパネル展では、明弘さんと会場を訪れ、「一ききた仲だったので残念だ」と有本さんの死を悼んだ。北朝鮮の説明などによると、石岡亨さんは有本恵子さんと結婚していたとされる。章さんは「娘を心配する温かいお母さんだった」と話した。

夫・明弘さん「言葉出えへん」

「言葉が出えへん」。6日午後、神戸市兵庫区の斎場で記者会見した有本嘉代子さんの夫・明弘さんは、目元をぬぐいながら、絞り出すように記者の質問に何度も繰り返した。

嘉代子さんは、入院中のベッドの上でも最後まで恵子さんのことを気にかけていたという。長年、一緒に続けてきた救出活動の思い出を聞かれ、叫ぶように「言葉も出えへん。今は無理や」と

答えた。最後の会話などについて尋ねられると、「涙は出るけど言葉は出えへん。そういう心境や。70年前に（嘉代子さんと）知りおうて……」と声を震わせた。

「当初から一緒に活動してきた仲だったので残念だ」と有本さんの死を悼んだ。北朝鮮の説明などによると、石岡亨さんは有本恵子さんと結婚していたとされる。章さんは「娘を心配する温かいお母さんだった」と話した。

曾我ひとみさん「志半ばで残念」

欧州旅行中の1980年に拉致された石岡亨さん（拉致当時22）の兄で、札幌市に住む章さん（65）は

拉致被害者で福井県小浜市の地村保志さん（64）と富貴恵さん（64）夫妻もコメントを発表。「嘉代子さんと恵子さんの再会がかなわず、本当に残念でなりません」と悔しさをにじませた。

「当初から一緒に活動してきた仲だったので残念だ」と有本さんの死を悼んだ。北朝鮮の説明などによると、石岡亨さんは有本恵子さんと結婚していたとされる。章さんは「娘を心配する温かいお母さんだった」と話した。



有本恵子さん